現況併合図



国道58号

歩道橋

KBM±0＝ A2(H25.13)

B-7

B-6

B-5

B-4

B-3

B-2

B-1

21.80m

10.80m

16.80m

10.80m

17.70m

14.50m

6.80m

32.50m

3.80m

17.90m

17.00m

18.50m

23.60mm

9.30m

N

コンテナ

コンテナ

⊕B-1 ←新地盤調査位置

※調査深さ：30～35m（島尻泥岩を確認）

図面名	現況併合図
土地所在	浦添市港川2丁目224-2外9
縮尺	1/400
作成年月日	令和6年8月21日作成
作成者	土地家屋調査士　長間　栄

ボーリング柱状図

調　査　名　（仮称）コンフォート港川新築工事

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	B－1	調査位置	沖縄県浦添市港川2丁目224－2　外9筆					北緯	
発注機関				調査期間	2025年 1月 31日 ～ 2025年 2月 3日			東経	
調査業者名	有限会社貴建設 電話（098－946－7918）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	島袋 貴之	ボーリング責任者	嵩原 寛剛
孔口標高	KBM +3.29m	角度	上 180° 90° 下 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西	地盤勾配	鉛直 90° 水平0°	使用機種	試錐機：YBM－05DA－2　ハンマー落下用具：半自動落下型
総掘進長	38.27m							エンジン	ヤンマーTF－90V－E　ポンプ：YS550DX

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1					礫混じり粘土，埋土	暗褐～茶褐			埋土 表層はアスファルト・路盤材（20cm程度） 以深、石灰岩礫やコンクリート片等を混入する粘性土。 含水比は中位程度で、礫分により緊硬度高くなる。
2	1.29	2.00	2.00						
3					シルト質砂礫，琉球石灰岩	明褐～淡褐～褐～茶褐			第四紀琉球石灰岩層 シルトを伴う未固結砂礫層が分布する。 中礫程度と中砂～粗砂を主体とした砂礫層で、高含水のシルト分を混合する。
4									
5									
6									
7									5.00m付近では、固結部である岩塊が確認され、10cm未満の棒状コアで採取率される。
8									
9									
10									全体的に中位にしまった状態の相対密度を示すが、7.00m以深は、細粒分が多くゆるい状態を呈する。
11									
12	-9.41	10.70	12.70						
13					島尻層，シルト質砂	茶褐			島尻層砂岩　風化部 全体的に粒子均一な細粒細砂（ニービ）が分布する。
14									
15									
16									風化作用を著しく受け、酸化褐色を成す。軟質化が認められ、全体的に中位に締まった状態を呈する。
17									
18									
19									
20	-17.11	7.70	20.40						
21	-18.21	1.10	21.50		島尻層，風化粘土	灰			島尻層泥岩 新鮮色の灰色を成す泥岩が分布する。 吸水軟化が認められ、非常に硬い状態を示す。
22									
23					島尻層，シルト質砂	茶褐～灰			島尻層砂岩　風化部 風化作用により酸化褐色を成し、軟質化した砂岩層。
24									24.00m付近より、新鮮色の灰色を成す。
25	-21.71	3.50	25.00						
26					島尻層，砂岩泥岩互層	灰			第三紀島尻層砂岩泥岩互層 全体的に粒子均一な細粒細砂からなり、相対密度も非常に密に締まった状態で分布している。
27									
28									
29									
30									所々に、岩塊化した砂岩が確認され、礫状～棒状コアで採取される。
31									
32									
33									30.90m以深では、島尻層泥岩を主体とし、固結状にて、特別に硬い泥岩地盤が分布する。含水比は非常に低い。
34									
35									35.00m以深は、再び砂岩層を主体とする。部分的に吸水軟化が認められ、相対密度が下がるが、37.00m以深ではN値60以上を連続して確認できる調査地域一帯の基盤層となる。
36									
37									
38	-34.98	13.27	38.27						

孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
2/3 16.78 ▽	1.15～1.33	22	38		60/18	100							
	2.15～2.45	3	5	3	11/30	11							
	3.15～3.45	2	2	6	10/30	10							
	4.15～4.45	8	6	8	22/30	22							
	5.00～5.05	60/5			60/5	360							
	6.15～6.45	5	6	4	15/30	15							
	7.15～7.45	2	2	2	6/30	6							
	8.15～8.45	2	2	2	6/30	6							
	9.15～9.45	2	2	2	6/30	6							
	10.15～10.45	3	3	4	10/30	10							
	11.15～11.45	4	4	6	14/30	14							
	12.15～12.45	5	3	4	12/30	12							
	13.15～13.45	3	3	4	10/30	10							
	14.15～14.45	2	5	1	8/30	8							
	15.15～15.45	6	7	8	21/30	21							
	16.15～16.45	5	8	4	17/30	17							
	17.15～17.45	4	5	7	16/30	16							
	18.15～18.45	6	8	11	25/30	25							
	19.15～19.45	9	9	11	29/30	29							
	20.05～20.25	21	29	10/1	60/21	86							
	21.15～21.45	7	8	10	25/30	25							
	22.15～22.45	8	9	8	25/30	25							
	23.15～23.45	9	10	10	29/30	29							
	24.15～24.45	10	9	8	27/30	27							
	25.05～25.17	47	13/2		60/12	150							
	25.00～25.05	60/5			60/5	360							
	27.00～27.05	60/5			60/5	360							
	28.15～28.44	11	23	26/9	60/29	82							
	29.05～29.27	19	30	11/2	60/23	82							
	30.00～30.20	22	38		60/20	90							
	31.15～31.45	12	21	22	55/30	55							
	32.15～32.45	12	20	24	56/30	56							
	33.05～33.29	16	28	16/4	60/24	75							
	34.05～34.29	15	28	17/4	60/24	75							
	35.15～35.45	9	10	13	32/30	32							
	36.15～36.45	8	13	17	38/30	38							
	37.05～37.28	16	34	10/3	60/23	78							
	38.05～38.27	15	32	13/2	60/22	82							

ボーリング柱状図

調　査　名　（仮称）コンフォート港川新築工事

事業・工事名

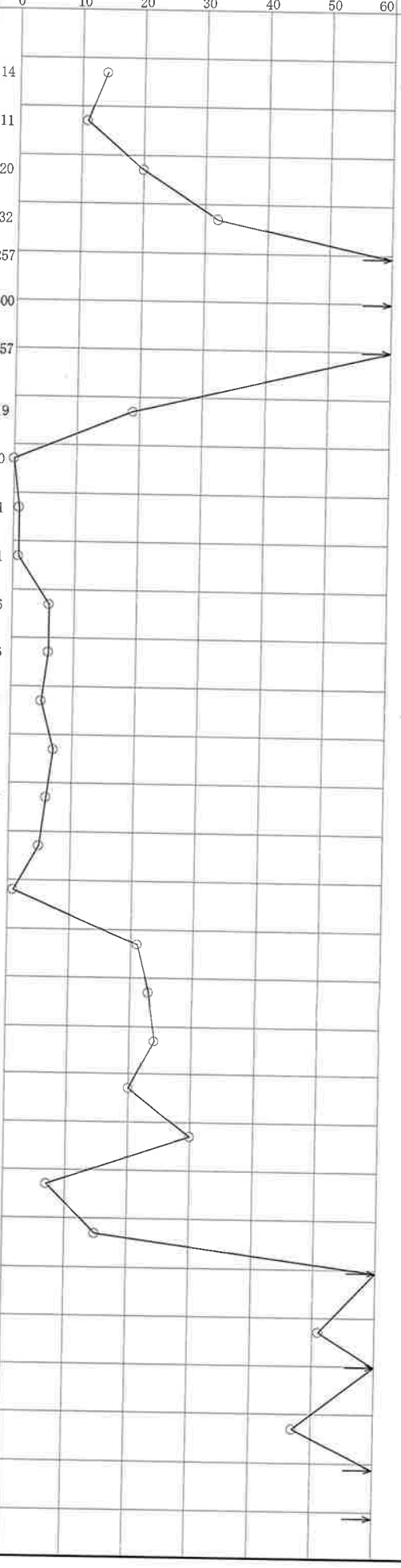
ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	B－2	調査位置	沖縄県浦添市港川2丁目224－2　外9筆					北緯	
発注機関				調査期間	2025年 2月 4日 ～ 2025年 2月 7日			東経	
調査業者名	有限会社貴建設 電話（098－946－7918）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	島袋 貴之	ボーリング責任者	嵩原 寛剛
孔口標高	KBM +3.00m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機：YBM－05DA－2　ハンマー落下用具：半自動落下型
総掘進長	31.23m							エンジン	ヤンマーTF－90V－E　ポンプ：YS550DX

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	2.30	0.70	0.70		礫混じり粘土，埋土	暗褐			埋土 表層はアスファルト・路盤材（20cm程度） 以深、石灰岩礫やコンクリート片、レンガ片等を混入する粘性土。
2									
3	0.30	2.00	2.70		シルト質粘土，埋土	茶褐			埋土 礫分の混入は殆どなく、琉球石灰岩風化土を基調とした粘性土。 含水比は中位～やや低め。 2.60m付近で、コンクリート片や金属片が確認される。
4									
5					シルト質砂礫，琉球石灰岩	明褐～褐			第四紀琉球石灰岩層 シルトを伴う未固結砂礫層が分布する。 中礫と粗砂を主体とし、半固結状で構成され、中位～密に締まった状態の相対密度を示す。
6									
7									
8									5.00m付近より、固結部である岩塊が確認され、10cm未満の棒状コアが多く採取される。
9									
10									
11									
12									8.00m以深は、再び砂礫層が主体で、礫分が減少し砂質石灰岩となる。
13									
14									
15									細粒分が多く確認され、全体的に非常にゆるい～ゆるい状態で構成される。
16									
17	-14.00	14.30	17.00		島尻層，シルト質砂	茶褐			島尻層砂岩　風化部 風化作用を著しく受けた、細粒細砂が分布する。 上部、は含水比が高くゆるい状態を示す。 深度方向へ従い、含水比低くなり相対密度も増す。
18									
19									
20	-17.50	3.50	20.50						
21					島尻層，シルト質粘土	茶褐			島尻層泥岩　風化部 風化作用を著しく受け、酸化褐色を成し吸水軟化した泥岩が分布する。 含水比は低めで、非常に硬い状態を示す。
22	-19.00	1.50	22.00						
23					島尻層，シルト質砂	灰～茶褐			島尻層砂岩　風化部 細粒細砂で、風化著しく酸化し、軟質化が認められる。中位～密に締まった状態。 所々で、新鮮色の灰色を成す部位が確認される。 24.00m付近は、含水比高くゆるい状態を示す。
24									
25									
26	-23.00	4.00	26.00						
27					島尻層，砂岩	灰			第三紀島尻層砂岩 全体的に粒子均一な細粒細砂からなり、相対密度も非常に密に締まった状態を呈する。 所々で、岩塊化した砂岩が棒状コアで採取される。 29.00m付近は、僅かに含水比が変化し湿り気がある。 以深は、N値60以上を連続して確認できる、調査地域一帯の基盤層となる。
28									
29									
30									
31	-28.23	5.23	31.23						

孔内水位(m)／測定月日	深度 (m)	標準貫入試験 10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
	1.15	4	4	6	14／30	
	1.45 2.15	4	3	4	11／30	
	2.45 3.15	4	5	11	20／30	
	3.45 4.15	18	8	6	32／30	
	4.45 5.05	60／7			60／7	
	5.12 6.00	60／6			60／6	
	6.06 7.00	60／7			60／7	
	7.07 8.15	12	6	1	19／30	
	8.45 9.15	ハンマー自沈			0／30	
	9.45 10.15	1／30			1／30	
	10.45 11.15	1／30			1／30	
	11.45 12.15	2	2	2	6／30	
	12.45 13.15	2	2	2	6／30	
	13.45 14.15	1	2	2	5／30	
	14.45 15.15	4	2	1	7／30	
	15.45 16.15	2	2	2	6／30	
	16.45 17.15	2	2	1	5／30	
2/7 17.90	17.45 18.05	1／30			1／30	
	18.35 19.15	5	7	9	21／30	
	19.45 20.15	5	8	10	23／30	
	20.45 21.15	6	8	10	24／30	
	21.45 22.15	4	5	11	20／30	
	22.45 23.15	9	9	12	30／30	
	23.45 24.15	3	2	2	7／30	
	24.45 25.15	5	4	6	15／30	
	25.45 26.00	20	40／3		60／13	
	26.13 27.15	15	16	20	51／30	
	27.45 28.00	60／5			60／5	
	28.05 29.15	18	12	17	47／30	
	29.45 30.05	15	45／5		60／15	
	30.20 31.05	28	32／8		60／18	
	31.23					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日

ボーリング柱状図

調　査　名　（仮称）コンフォート港川新築工事

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	B－3	調査位置	沖縄県浦添市港川２２４－２　外９筆			北緯	
発注機関				調査期間	2025年 2月 7日 ～ 2025年 2月 11日	東経	
調査業者名	有限会社貴建設 電話（０９８－９４６－７９１８）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者 島袋 貴之	ボーリング責任者 嵩原 寛剛
孔口標高	KBM +2.64m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°
総掘進長	30.29m	使用機種	試錐機：YBM－05DA－2	ハンマー落下用具：半自動落下型	エンジン：ヤンマーTF－90V－E	ポンプ：YS550DX	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1									埋土 表層はアスファルト・路盤材（20cm程度） 以深、石灰岩礫やコンクリート片、レンガ片等の混入が確認される粘性土。 含水比は中位程度で、礫分により緊硬度にバラつきが認められる。	
2					礫混じり粘土，埋土	暗褐～茶褐				
3	-0.36	3.00	3.00							
4									第四紀琉球石灰岩層 シルトを伴う未固結砂礫層が分布する。	
5										
6									5.00m付近は、固結部である岩塊が確認され、15cm未満の棒状コアが採取される。	
7										2/10 7.50
8										
9									全体的に、中位に締まった状態で構成され、小礫～中礫と細砂～中砂程度を主体とする砂礫層。	
10										
11					シルト質砂礫，琉球石灰岩	茶褐				
12									層中部より、砂質石灰岩を主体とし、半固結状を呈する。固結した礫分も確認される。	
13										
14										
15									層下部では、シルト分が多く確認され、部分的に岩塊を挟む。	
16										
17										
18									17.00m付近は非常にゆるく、高含水比の流入粘土が確認される。	
19									以深は礫分が目立ち、非常に密に締まった状態を呈する。	
20	-17.36	17.00	20.00							
21					島尻層，シルト質砂	茶褐			島尻層砂岩　風化部 細粒細砂（ニービ）が分布する。	
22									風化作用を著しく受け、酸化褐色を成し軟質化している。	
23	-20.36	3.00	23.00							
24									第三紀島尻層砂岩 全体的に粒子均一な細粒細砂からなり、相対密度も非常に密に締まった状態で分布している。	
25										
26					島尻層，砂岩	灰			所々で、岩塊化した砂岩が分布し、棒状コアで採取される。	
27									部分的に湿り気があり、吸水軟化し密度が下がる。	
28										
29									29.00m付近は、岩塊が多く確認され、連続性はないがN値60以上を連続して確認できる調査地域一帯の基盤層となる。	
30	-27.65	7.29	30.29							

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60
1.15	1	2	3	6／30	6
1.45 2.15	2	4	6	12／30	12
2.45 3.15	4	4	3	11／30	11
3.45 4.15	7	6	16	29／30	29
4.45 5.00	60／6			60／6	300
5.06 6.15	5	8	7	20／30	20
6.45 7.15	4	5	10	19／30	19
7.45 8.15	7	3	12	22／30	22
8.45 9.15	4	3	5	12／30	12
9.45 10.15	4	5	4	13／30	13
10.45 11.15	2	3	5	10／30	10
11.45 12.15	7	8	10	25／30	25
12.45 13.15	8	5	5	18／30	18
13.45 14.15	9	14	8	31／30	31
14.45 15.15	8	5	12	25／30	25
15.45 16.00	60／5			60／5	360
16.05 17.05	1／40			1／40	1
17.45 18.15	17	23	20／8	60／28	64
18.43 19.15	10	50／6		60／16	113
19.31 20.15	5	7	9	21／30	21
20.45 21.15	6	7	9	22／30	22
21.45 22.15	8	11	15	34／30	34
22.45 23.15	6	19	35	60／30	60
23.45 24.15	60／5			60／5	360
24.20 25.05	60／6			60／6	300
25.11 26.15	11	11	20	42／30	42
26.45 27.15	46	14／4		60／14	129
27.29 28.15	8	12	16	36／30	36
28.45 29.00	60／4			60／4	450
29.04 30.15	21	39／4		60／14	129
30.29					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日

ボーリング柱状図

調　査　名　（仮称）コンフォート港川新築工事

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	B－4	調査位置	沖縄県浦添市港川2丁目224－2　外9筆			北緯	
発注機関				調査期間	2025年 2月 12日 ～ 2025年 2月 14日	東経	
調査業者名	有限会社貴建設 電話（098－946－7918）	主任技師		現場代理人		コア鑑定者 島袋 貴之	ボーリング責任者 嵩原 寛剛
孔口標高	KBM +2.49m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°
総掘進長	30.27m	使用機種		エンジン	ヤンマーTF－90V－E	ハンマー落下用具	半自動落下型
				試錐機	YBM－05DA－2	ポンプ	YS550DX

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1					礫混じり粘土，埋土	暗褐～茶褐			埋土 表層はアスファルト・路盤材（20cm程度） 以深、石灰岩礫やコンクリート片の混入が確認される粘性土。
2	0.59	1.90	1.90						
3									第四紀琉球石灰岩層 シルトを伴う未固結砂礫層が分布する。
4									
5						白褐～明褐～白褐～明褐～褐～明褐～褐			3.00m付近は、固結部である岩塊が確認され、10cm未満の棒状コアが採取される。
6									
7					シルト質砂礫，琉球石灰岩				
8									
9									
10									上部、密に締まった状態の相対密度を示すが、深度方向へ中位～ゆるい状態で構成されている。
11									
12									
13									
14									層下部では、細粒分も多く砂質石灰岩を主体とし、半固結状を呈する。
15									
16	-13.51	14.10	16.00		島尻層，シルト質砂	茶褐			島尻層砂岩　風化部 風化作用を著しく受け、酸化褐色を成し、吸水軟化した砂岩が分布する。 部分的に、風化泥岩を挟む。含水比は低位。
17									
18									
19									全体的に、密に～非常に密に締まった状態を示し、僅かに岩塊化した砂岩が確認される。
20									
21	-18.51	5.00	21.00						
22	-20.01	1.50	22.50		島尻層，風化粘土	茶褐			島尻層泥岩　風化部 著しく風化作用を受けた泥岩が分布する。 含水比は低く、固結した状態を呈する。
23					島尻層，シルト質砂	茶褐			島尻層砂岩　風化部 岩塊化した砂岩が点在する砂岩層。 連続性はなく、密に締まった状態の細粒細砂を主体とする。
24									
25	-22.51	2.50	25.00						
26					島尻層，砂岩	灰			第三紀島尻層砂岩 全体的に粒子均一な細粒細砂からなり、相対密度も非常に密に締まった状態を呈する。 岩塊化した砂岩が多く確認され、5cm程度の短棒状コアで採取される。
27									
28									岩塊に連続性はないが、非常に密に締まった状態で、N値60以上を連続して確認できる、調査地域一帯の基盤層となる。
29									
30	-27.78	5.27	30.27						

孔内水位(m)／測定月日：2/13 13.05

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	1	2	5／30	5
1.45～2.15	6	4	4	14／30	14
2.45～3.15	2	2	2	6／30	6
3.45～4.00	60／7			60／7	257
4.07～5.00	60／5			60／5	360
5.05～6.15	13	16	14	43／30	43
6.45～7.15	8	12	13	33／30	33
7.45～8.15	20	12	16	48／30	48
8.45～9.15	9	11	7	27／30	27
9.45～10.15	3	2	2	7／30	7
10.45～11.15	2	1	2	5／30	5
11.45～12.15	7	8	5	20／30	20
12.45～13.15	4	7	6	17／30	17
13.45～14.15	5	6	5	16／30	16
14.45～15.15	9	10	5	24／30	24
15.45～16.15	8	8	9	25／30	25
16.45～17.00	60／5			60／5	360
17.05～18.15	9	16	16	41／30	41
18.45～19.15	10	15	20	45／30	45
19.45～20.15	12	20	25	57／30	57
20.45～21.15	11	18	23	52／30	52
21.45～22.15	13	17	25	55／30	55
22.45～23.00	60／7			60／7	257
23.07～24.15	9	14	20	43／30	43
24.45～25.15	13	24	23／3	60／33	78
25.38～26.05	18	42／5		60／15	120
26.20～27.00	60／5			60／5	360
27.05～28.00	60／5			60／5	360
28.05～29.15	12	18	30	60／30	60
29.45～30.05	15	30	15／2	60／11	82
30.27					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日